

生活指導だより

令和3年11月1日
練馬区立開進第二中学校
第7号
(文責：中村 哲)



けじめある集団、高めあう集団



アイツがいるから、みんながいるから、頑張れた…。自分自身を振り返ってみても、そういう経験は山ほどある。「集団」というのは非常にパワーを引き出してくれるものだ。自分の弱さを律し鍛錬に汗する聖人君子は別として、「自律」だ「自立」だと声高に叫んでみても、とにかく安きに流れてしまいがちなのが我々人間の一面でもある。そんな時、自分に喝を入れてくれるもの、奮い立たせてくれるもの、それが「集団」というものではないだろうか。

部活動の練習一つ取ってみてもそうだろう。スクワットやシャトルラン、基礎打ちなどなど、みんなが「うあ～！」と少し尻込みしてしまうキツイ練習がどの部活動にもあるかと思う。そんなキツイ練習だが、はたして自分一人でもやっただろうか？ 乳酸が溜まり動けなくなった体にさらに鞭打ち、足を前へ進めただろうか。私自身、ほとんど「No!」である。なぜやったかという「周りがやっていて、自分だけやらない訳にはいかない」ということになる。毎年正月に行われる箱根駅伝がいい例だ。自分たちの襷(たすき)は、何がなんでも、次の走者につなごうとする。中継地点で顔面蒼白、倒れ込むようにゴールする選手の姿を見たことがあるだろう。部員全員の名前が刻まれたその襷を、時に命をかけてつなごうとする。このように一人では絶対にやりそうもないことでもやってしまう。いや、やらされてしまう。これが「集団」のもつパワーと言える。

これを使わない手はない。1学期に行われた運動会では様々な制約がありながらも、みんな必死で頑張っていたはずだ。バトンをもらって走っているときに、自分の見てくれを気にしている人は一人もいなかった。また、部活動では2年生が中心となり、初めての大会にも出場した人もいると思うが、練習時とは比べ物にならないくらいの緊張感の中、チーム一丸、全力で臨んだことと思う。また、3年生は受験本番に向けてまっしぐらであるが、授業での集中力の高さや提出物の状況などを見ても、集団として機能している様をすごく感じる。

ただし、一つ心に留めておかなければならないのは、「集団」には「赤信号、みんなで渡れば怖くない」という付和雷同性があるということだ。よって、単なる「群れる集団」であってはならない。一人ひとりがしっかり自分の考えをもち、それを遠慮なくぶつけ合うことができる集団こそ理想だ。求めていく過程では、きっといろいろな問題が噴出してくるだろう。些細なことから大きなことまで様々だ。しかし、理想の集団を求めるならば意見の衝突は避けられない。そんな時は、とことん話し合い、ルールを、そして進む道を決めればよい。それを礎に全員で決めた目標があれば鬼に金棒、どうしたって悪い方向には進まない。

「けじめある集団」「高め合う集団」。開進二中にもそうした集団が必要だ。

◆それ、重大な人権侵害です！

みなさんは平成27年に生徒会を中心に策定された本校の SNS ルール「開進二中 十の約束」があるのを知っていると思います。その中の、3つ目と4つ目に何が書かれているか分かりますでしょうか。3つ目には「自分や他人の個人情報（写真・名前等）はのせません。」とあり、4つ目には「友だちの悪口や仲間はずれの道具にはしません。」と書かれています。なぜ、このルールが書かれているかというと、こうした行為が大きなトラブルに発展し、時に命に係わる取り返しのつかない重大事案に発展することがあるからです。



デマや誹謗中傷、差別的な内容を書き込んだり、拡散する行為は、重大な人権侵害です。必要な手続きを踏めば、誰が書き込んだのかは明らかになり、中には名誉毀損や脅迫などの不法行為として裁判になり、損害賠償を請求されるケースも出てきます。

後で悔やんでもどうしようもないこともあります。「悪気はなかった」「軽いノリで書きこんでしまった」という言い訳はゼツタイに通用しません。そして、何よりもあなた自身の周りからの信用をなくしてしまいます。誤解を生まない、分かりやすい表現をこころがけ、読んだ人がいやな気持ちになる文になっていないか、送信する前にもう一度読み返すなど、ネット上でのルールとマナーを真剣に考えてみてください。



◆自分自身に置き換えて

近隣の方から、開進二中の数名の男子生徒が、マンションの階段や踊り場で騒いだり、走り回るといった行為をしていて大変困っているとの連絡をいただきました。みなさん、考えてみてください。もし、あなたの自宅付近でそのような行為が行われていたらどうでしょうか。当然、「あぶないな」「うるさいな」「やめてほしい」と思うでしょう。ひよっとしたら、小さな子どもが近くで遊んでいるかもしれませんし、また、家の中では病気で寝ている人がいるかもしれません。私たちに必要なのは、自分自身に置き換えてみることであり、そうした想像力を働かせることです。人様の住居に限らず、自宅の周辺を含めた公共の場での振る舞い方を考えられる人になりましょう。



◆11月の月間目標

★環境が人をつくります！

環境を整え、授業に集中しよう

～様々な活動と学習の両立を～

